

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問リハビリ複数担当制による患者・セラピストの満足度と業務効率化についての調査
演者名	高橋友二郎 ¹⁾ 藤木渉 ¹⁾ 堤内誠 ¹⁾ 大石奈央 ¹⁾ 林田宏剛 ¹⁾ 大杉泰弘 ¹⁾²⁾
所属	1) 頤田病院 2) 飯塚病院総合診療科

【目的】当院では 5 名の専属セラピストにより訪問リハビリを実施し、現在、約 70 名の患者を担当している。以前は 1 患者に対して 1 セラピストが対応していたが、平成 26 年 4 月より 1 患者に対して 2、3 名のセラピストが交代で対応する複数担当制を実施した。この複数担当制に対する患者・セラピストの満足度と業務効率化について調査した。

【方法】現在、訪複数担当制を実施している患者計 44 名とセラピスト 5 名に対し、アンケート調査と複数担当制開始前 6 ヶ月と開始後 6 ヶ月の業務効率（有給休暇取得頻度・平均単位数）について調査した。

【結果】アンケート結果により、患者からは色々なやり方のリハビリができる、いろんな方とお話ができる事が嬉しい、祝日の振りかえができて良かった、などの意見が多く見られた。セラピストからは休暇が取れるようになった、患者の申し送りや相談が多くできるようになった、などの意見がみられた。これらにより両者共に複数担当制は良いと言う意見が多くみられ、満足度が高いことが分かった。更に、業務効率化に関して複数担当制実施前後で休暇取得頻度が 0.44 回/月から 1.29 回/月に向上し、平均単位数が 8.54 単位/月から 9.7 単位/月と増加したことから業務効率向上が認められた。

【考察】複数担当制により 1 患者に複数のセラピストが交代で対応することで、異なる視点のアプローチや専門性を活かしたリハビリを実施することが可能になった。また、訪問日の変更など柔軟なリハビリ提供が可能となった。その結果、セラピストの有休休暇取得が容易となり、代行リハビリが可能となることでセラピスト 1 人あたりの平均単位数が増加した。以上より、複数担当制は患者・セラピスト満足度向上、業務効率化につながっていると考えられる。